

第 1 章	河川形態.....	1-1
1.1	ハビタット調査.....	1-1
1.1.1	調査概要.....	1-1
1.1.2	調査結果.....	1-7
1.2	河川形態調査.....	1-20

第1章 河川形態

1.1 ハビタット調査

1.1.1 調査概要

(1) 調査背景

第 15 回協議会における指摘事項

■環境要素について

瀬、淵等の環境要素について、定義及び内容を説明した資料が必要である。また、河畔林等も考慮するべきである。

指摘に対する追加検討の内容

■環境要素について

現地調査及び既存資料を整理し、環境要素の定義及び内容の整理を行った。

(2) 調査方法

調査にあたっては、事前に空中写真から予測を行ったうえで、現地調査により場の状況を確認し、平面図に記録をした。また、西大滝ダム減水区間及び宮中ダム減水区間の環境要素をそれぞれ整理することとした。

(3) 調査期日及び調査地点

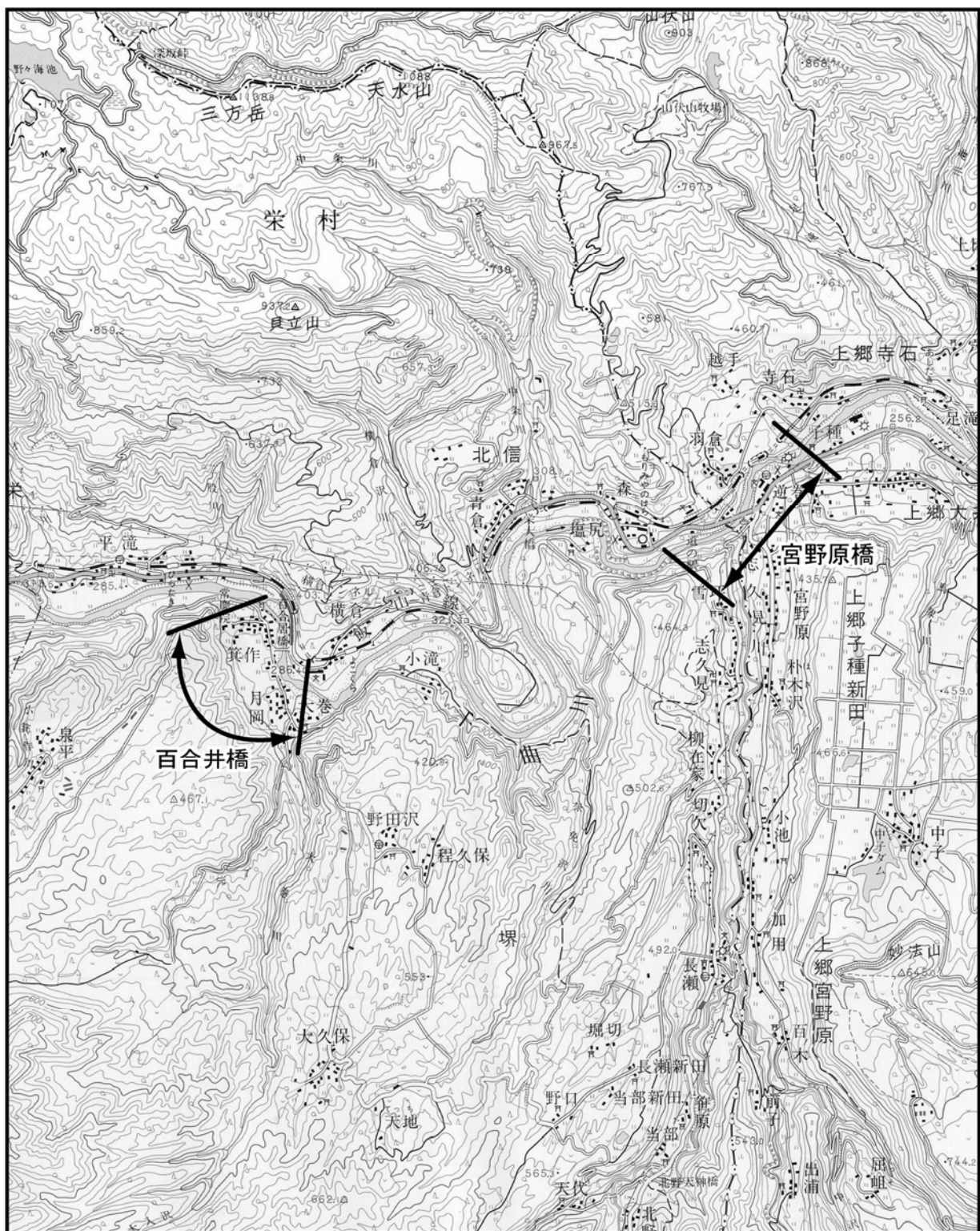
調査は、西大滝ダム減水区間の百合居橋、宮野原橋及び清津川合流点下流、宮中ダム減水区間の十日町橋、栄橋、川井大橋の 6 地点で実施した。調査区間は瀬淵などの環境のセットが出現する、1 リーチ程度の長さ（おおむね 1km 程度）で設定した。調査地点の選定理由を表 1.1-1 に、調査地点を図 1.1-1 に、調査期日を表 1.1-2 示す。

表 1.1-1 調査区間選定理由

	地点名		選定理由
西大滝ダム 減水区間	1	百合居橋	瀬淵などの環境のセットが出現しており、既往の調査において魚類・底生動物調査等が実施されている区間である。
	2	宮野原橋	瀬淵などの環境のセットが出現しており、既往の調査において生物、景観調査等が実施されている区間である。
	3	清津川合流点下流	瀬淵などの環境のセットが出現しており、西大滝ダム減水区間の最下流地点である。
宮中ダム 減水区間	4	十日町橋	瀬淵などの環境のセットが出現しており、既往の調査において魚類・底生動物調査等が実施されている区間である。
	5	栄橋	瀬淵などの環境のセットが出現しており、既往の調査において魚類・底生動物調査等が実施されている区間である。
	6	川井大橋	瀬淵などの環境のセットが出現しており、既往の調査において魚類・底生動物調査等が実施されている区間である。

表 1.1-2 調査時期

	地点名		調査日
西大滝ダム 減水区間	1	百合居橋	平成 19 年 10 月 29 日、31 日
	2	宮野原橋	平成 19 年 10 月 30 日、31 日
	3	清津川合流点下流	平成 19 年 10 月 30 日、31 日
宮中ダム 減水区間	4	十日町橋	平成 18 年 8 月 31 日、9 月 1 日 平成 19 年 10 月 31 日
	5	栄橋	平成 18 年 9 月 1 日 平成 19 年 10 月 31 日
	6	川井大橋	平成 18 年 8 月 31 日 平成 19 年 10 月 31 日



凡 例

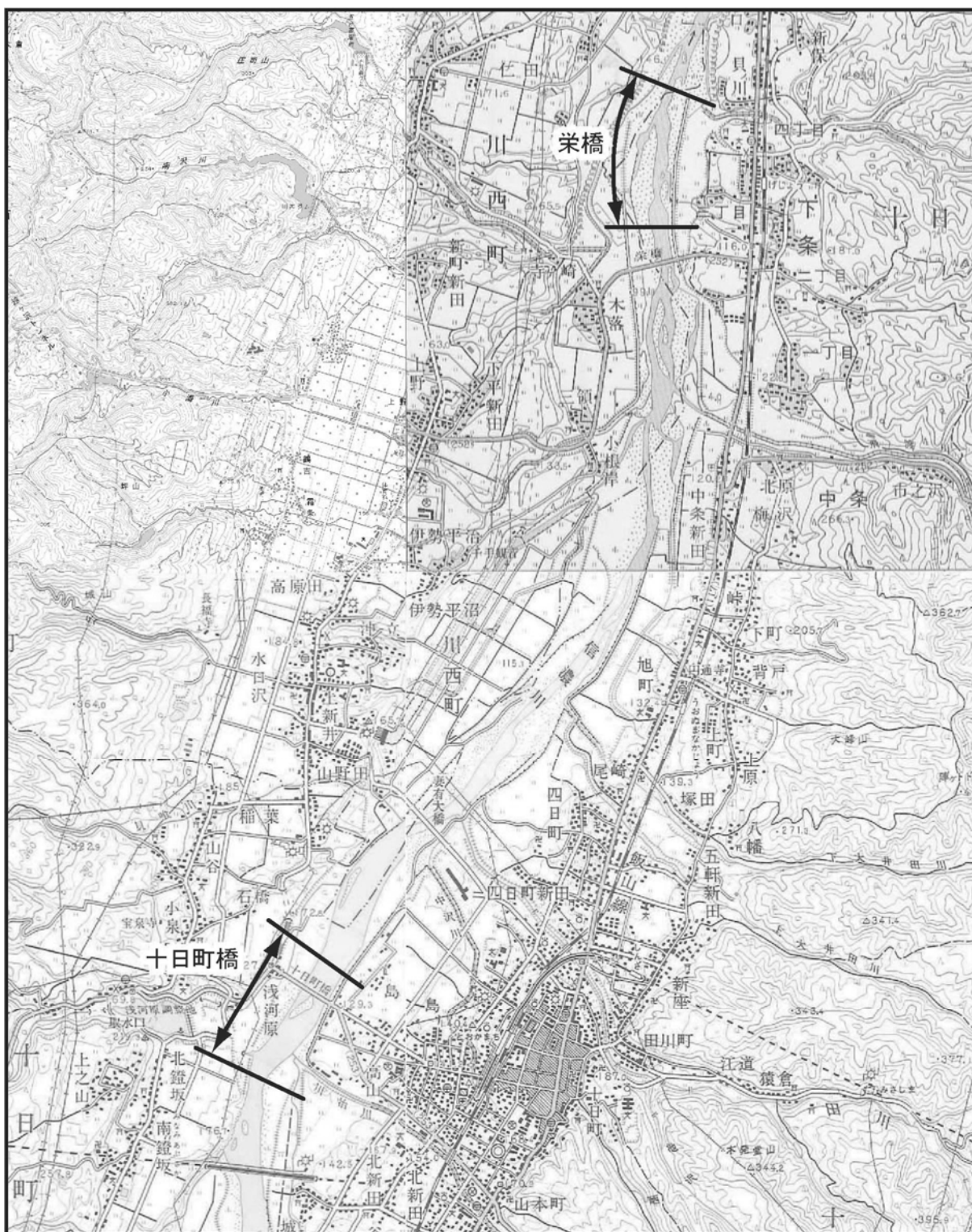
◄ ► : 調査区間



Scale = 1:50,000

0 1 2km

図 1.1-1(1)
調査位置図



凡 例

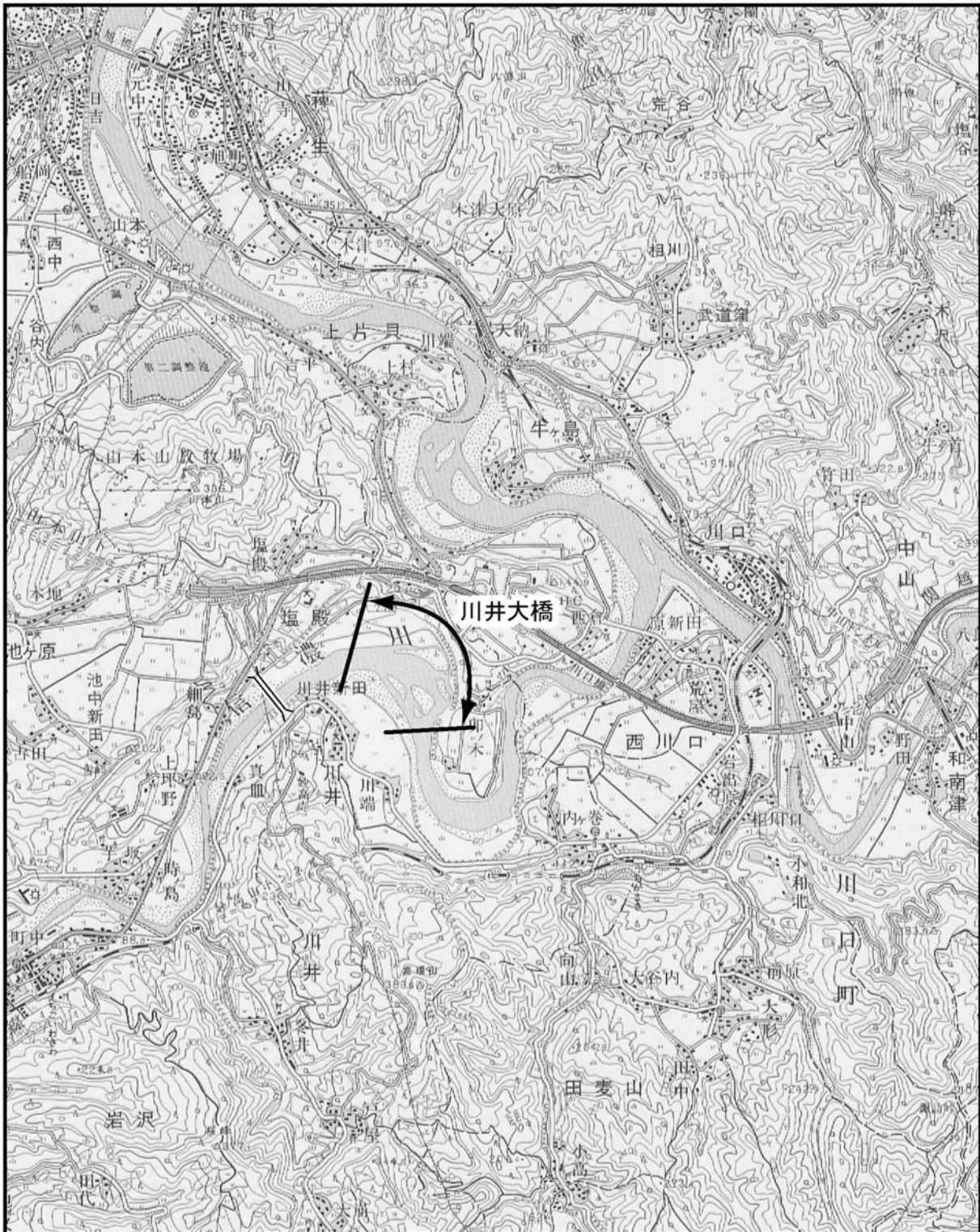
◄► : 調査区間



Scale = 1:50,000

0 1 2km

図 1.1-1(3)
調査位置図



凡 例

⇔ : 調査区間



Scale = 1:50,000

0 1 2km

図 1.1-1(4)
調査位置図

1.1.2 調査結果

環境要素分布図及び環境写真を図 1.1-3 及び図 1.1-4 に、整理した環境要素を表 1.1-3 及び表 1.1-4 に示す。

各地点の堤外地における環境区分の構成比を算出した結果、図 1.1-2 に示すとおり、宮中ダム減水区間(十日町橋、栄橋、川井大橋)は、西大滝ダム減水区間(百合居橋、宮野原橋、清津川合流点)と比較して、河原の割合が多くなっていることが明らかになった。

これらの調査の結果は、環境要素を分かりやすく表現するための資料として、「調査検討結果の概要」に反映させる予定である。

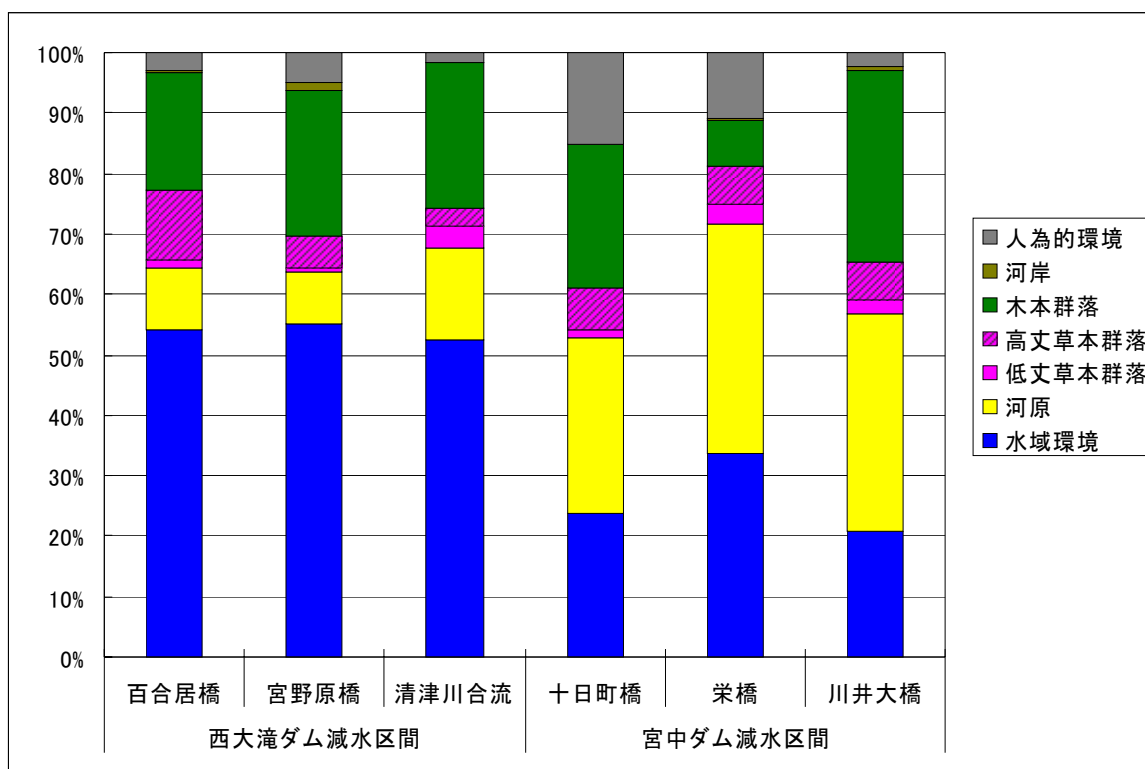


図 1.1-2 地点別環境区分構成比



航空写真撮影：平成 18 年 8 月 8 日

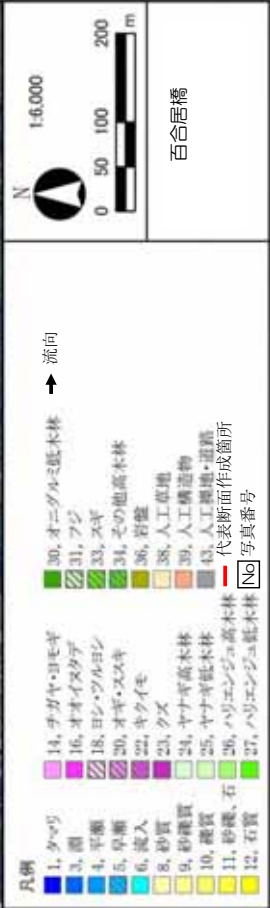
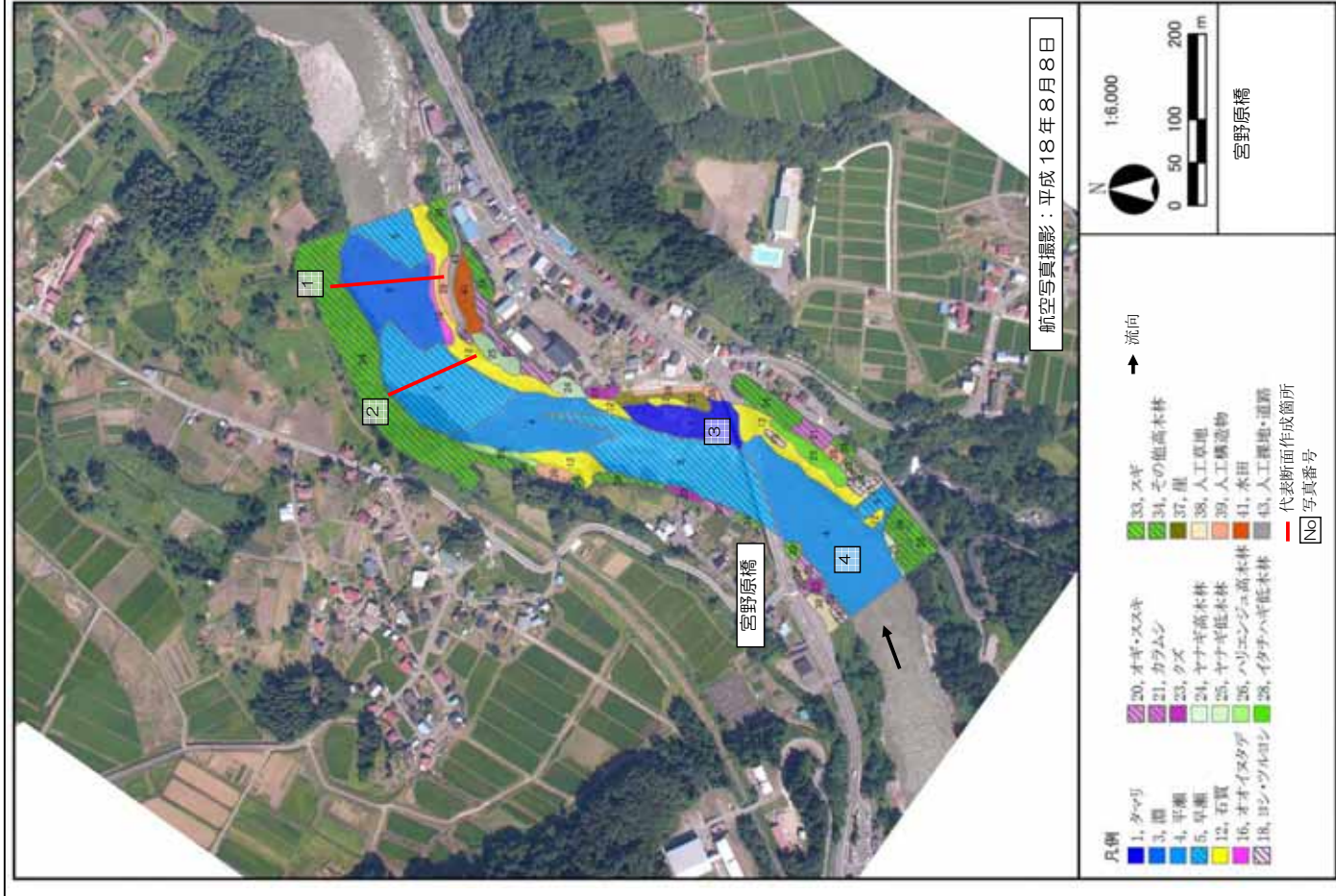


写真 1 平瀬		鳥類: セキレイ類 魚類: オイカワ、ウグイ 底生動物: シロタニガワカゲロウ
写真 2 流入		哺乳類: イタチ 両生類: トウキョウダルマガエル 魚類: 椎魚 底生動物: クロマダラカゲロウ、シロタニガワカゲロウ
写真 3 植生に覆われた水際		哺乳類: タヌキ 魚類: ギギ、椎魚 底生動物: クシガマダラカゲロウ
写真 4 タマリ		鳥類: セキレイ類 哺乳類: タヌキ 魚類: 椎魚 底生動物: ミズムシ(ミズムシ科)、クシガマダラカゲロウ
写真 5 浅瀬		鳥類: セキレイ類、カワガラス 底生動物: クロマダラカゲロウ、魚類: オイカワ等の魚類
写真 6 洲		写真 7 早瀬

注：代表断面の生物種については過年度調査等の結果から抽出した。

図 1.1-3(1) 環境要素分布図及び環境写真（百合居橋）



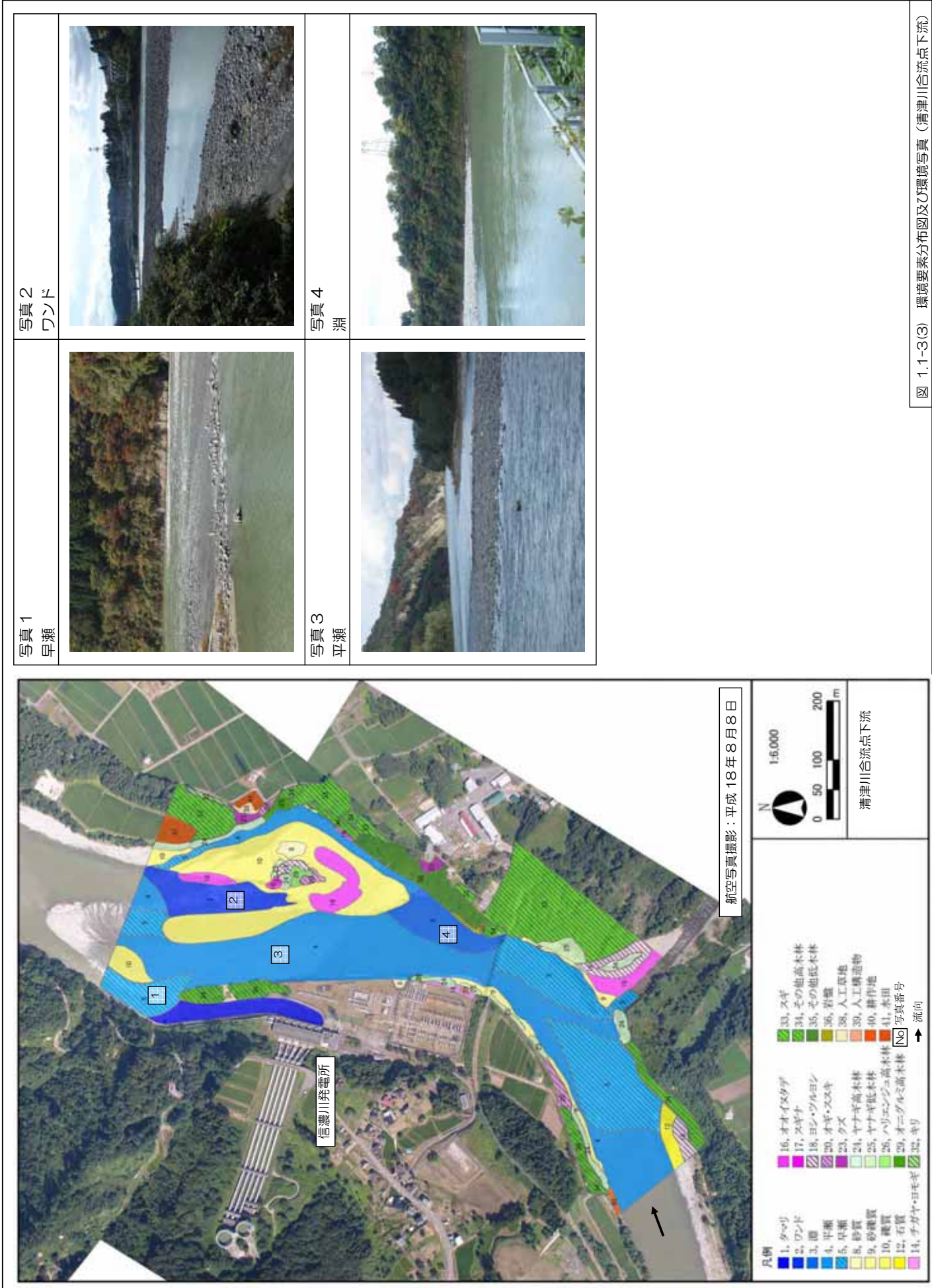


表 1.1-3(1) 断面模式図(西大滝ダム減水区間)





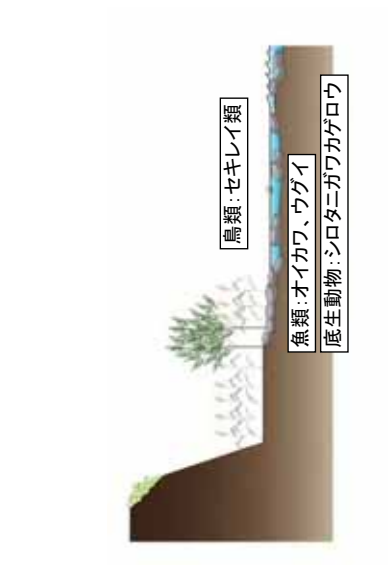
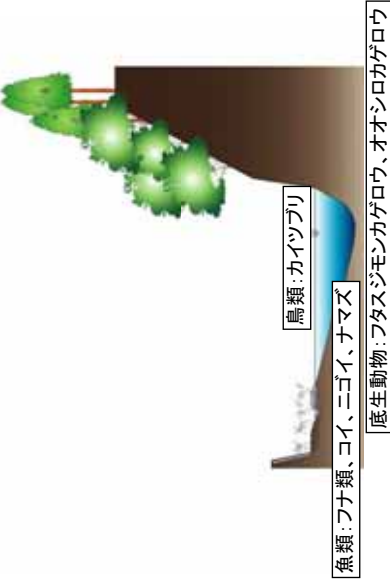
項目	早瀬	平瀬	淵
環境写真			
環境模式図	 <p>鳥類: セキレイ類、イソシギ 魚類: アカザ、オオヨシノボリ 底生動物: エルモンヒラタガゲロウ、ナカハラシマトビケラ</p>	 <p>鳥類: セキレイ類 魚類: オイカワ、ウグイ 底生動物: シロタニガワカゲロウ</p>	 <p>鳥類: カイツブリ 底生動物: フタスジモンカゲロウ、オオシロカゲロウ</p>
代表地点	西大滝ダム下流約13km 宮野原橋下流付近に位置する。河川の蛇行部となっており、全面に早瀬が形成されている。	西大滝ダム下流約8km 百合井橋上流付近、右岸側に位置する。河川の蛇行部となっており、礫洲にかかる早瀬の一部に平瀬が形成されている。	西大滝ダム下流約13km 川井大橋下流付近に位置する。河川の蛇行部となっており、上流側の早瀬の水衝部となっており、淵が形成されている。
生育環境・生物群落集	河床勾配	1/200	1/200
	河床形態	主にAa-Bb型移行型。	主にAa-Bb型移行型。
	河川植生	水際には礫・石・岩が堆積するが植物の生育は無い。山付き部水際にはタデ類が生育し、斜面にはツルヨシ、フジの他、木本類が生育する。	水際には、石や砂が堆積し、タデ類の生育がみられる。山付き部は崖状となっており、斜面上部に木本類の生育がみられる。
	魚類	早瀬の石礫底には、アカザ、オオヨシノボリが生息する。	静水域である淵では、フナ類、コイ、ニゴイ、ナマズ等が生息する。
	底生動物	流水部に生息するエルモンヒラタガゲロウや石下に巣を作り生息するナカハラシマトビケラ、チャバネヒゲナガカワトビケラ等のトビケラ類が石上で昆虫類を採餌する、セキレイ類やイソシギ等の鳥類がみられる。	流れが緩やかな場所では、フタスジモンカゲロウ、オオシロカゲロウ、クシゲマダラカゲロウが生息する。
その他			水深の深い淵では、潜水して採餌を行うカイツブリ等の鳥類がみられる。
	環境の概要	河床勾配は、概ね1/200であり、河川形態はAa-Bb移行型である。河川は細かく蛇行しており、早瀬と平瀬が続く、水衝部には淵が形成されている。また、河川内の所々に大小様々な礫が堆積し、洲の発達がみられ、その脇にはタマリが形成されている。洲に河川敷には、ヤナギ低木林や広葉樹等の樹林が成立している。洲に早瀬の石礫底には、カマツカ、アカザ、オオヨシノボリ等の魚類やエルモンヒラタガゲロウ、ナカハラシマトビケラ等の底生動物が生息する。また、セキレイ類やイソシギ等の鳥類がそれらを採餌する。	河川勾配は、概ね1/200であり、河川形態はAa-Bb移行型である。河川は細かく蛇行しており、早瀬と平瀬が続く、水衝部には淵が形成されている。また、河川内の所々に大小様々な礫が堆積し、洲の発達がみられ、その脇にはタマリが形成されている。洲に河川敷には、ヤナギ低木林や広葉樹等の樹林が成立している。洲に早瀬の石礫底には、カマツカ、アカザ、オオヨシノボリ等の魚類、フタスジモンカゲロウ、オオシロカゲロウ等の底生動物が生息する。水面では、カイツブリがみられ、潜水して採餌を行う。

表 1.1-3(2) 断面模式図(西大滝ダム減水区間)






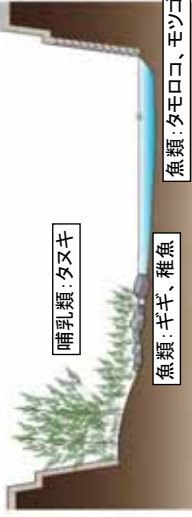

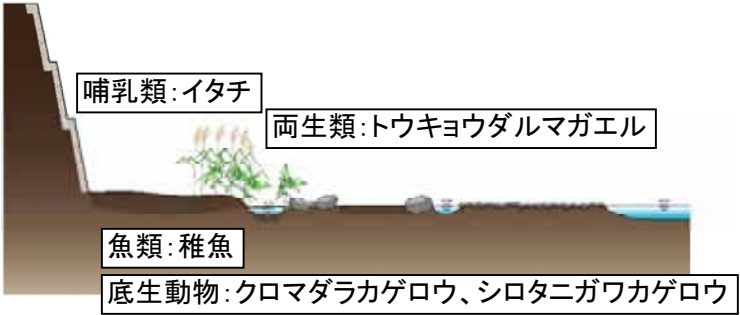
項目	浅場	ワンド	植生に覆われた水際
環境写真			
環境模式図	 <p>鳥類：セキレイ類、カワガラス 魚類：オイカワ等の稚魚 底生動物：クロマダラカゲロウ</p>	 <p>鳥類：セキレイ類 哺乳類：タヌキ 魚類：稚魚 底生動物：ミズムシ(ミズムシ科)、クシゲマダラカゲロウ</p>	 <p>哺乳類：タヌキ 魚類：ギギ、稚魚 底生動物：クシゲマダラカゲロウ</p>
代表地点	西大滝ダム下流約8km百合居橋下流付近、左岸側に位置する。河岸には低水ブロックが設置されており、水際に礫が堆積し、浅場が形成されている。	西大滝ダム下流約8km百合居橋下流付近、右岸側に位置する。護岸より砂礫が堆積し、一部にタマリが形成されている。	西大滝ダム下流約8km百合居橋下流付近、右岸側に位置する。護岸際に土砂や礫が堆積し、ヤナギ低木林やツルヨシの生育がみられる。
生育環境・生物群集	河床勾配	1/200	1/200
	河床形態	主にAa-Bb型移行型。	主にAa-Bb型移行型。
	河川植生	護岸除の低水ブロック上には、ヤナギ低木が生育する。水際には石が堆積するが、植物の生育はみられない。	水際には礫・石が堆積し、ワンドの背後には土砂が堆積する。全面にツルヨシが繁茂し、ヤナギ低木林が点在している。
	魚類	浅場は、オイカワ、ヨシノボリ類等の稚魚の生息場所となる。	ワンド等の水域は、稚魚の生息場所となる。
生物群集	底生動物	流れの緩やかな場所では、クロマダラカゲロウが生息する。	流れが速く、落ち葉等が堆積する場所には、ミズムシ(ミズムシ科)やクシゲマダラカゲロウが生息する。
	その他	水際や石上で、採餌を行うセキレイ類やカワガラス等の鳥類がみられる。	水際は、タヌキ等の哺乳類の採餌場所となり、ワンド内では、セキレイ類等の鳥類が採餌を行う。
環境の概要	河床勾配は、概ね1/200であり、河川形態はAa-Bb移行型である。河川は大きく蛇行しており、早瀬と平瀬が続く。全体的に流れが早い。河岸には、砂礫が堆積し、洲ができていく。タマリ等の周辺にはタデ類、ツルヨシ、ミゾソバ等の草本類の生育がみられる。浅場は、低水ブロック近くに堆積する礫によって形成されており、水深が浅く、比較的流れの遅い場所である。このような場所は、オイカワ等の稚魚の生息場所やクロマダラカゲロウ等の底生動物が生息する。水際や石上では、セキレイ類やカワガラスが採餌を行う。		
	河床勾配は、概ね1/200であり、河川形態はAa-Bb移行型である。河川は大きく蛇行しており、早瀬と平瀬が続く。全体的に流れが早い。河岸には、砂礫が堆積し、洲ができていく。タマリ等の周辺にはタデ類、ツルヨシ、ミゾソバ等の草本類の生育がみられる。水域に浸かる植物は、ギギや稚魚の隠れ場所となり、その周辺はオイカワ、ウグイ、カマツカ等の魚類やクシゲマダラカゲロウ等の底生動物の生息場所となる。また、水域に近づきやすいは、タヌキ等の小動物の採餌場所となる。		

表 1.1-3(3) 断面模式図(西大滝ダム減水区分間)

項目	流入
環境写真	
環境模式図	
代表地点	<p>西大滝ダム下流約6km百合居橋下流付近、右岸側に位置する。堤内地からの流入であり、砂礫洲の間を流れる。</p>
生 生 境 育 息 環 境	河床勾配 1/200
	河床形態 主にAa-Bb型移行型。
	河川植生 砂・礫・石の堆積がみられる。細流内や水際には、スギナ、タデ類、ツルヨシ、ミゾソバ等の草本類の繁茂がみられる。
生 物 群 集	魚類 植物が繁茂する細流は、稚魚の生息場所となる。
	底生動物 植物が繁茂する細流は、緩流域でみられるミズムシ(ミズムシ科)、クロマダラカゲロウ、シロタニガワカゲロウ等の生息場所となる。
	その他 水辺は、イタチ等の哺乳類の採餌場所となり、トウキョウダルマガエル(両生類)の生息場所となる。
環境の概要	<p>河床勾配は、概ね1/200であり、河川形態はAa-Bb移行型である。河川は大きく蛇行しており、早瀬と平瀬が続く、全体的に流れが早い。河岸には、砂礫が堆積し、洲が形成されている。洲の一部には、堤内地からの流入により、タマリや細流ができ、周辺にはタデ類、ツルヨシ、ミゾソバ等の草本類の生育がみられる。</p> <p>植物が繁茂する細流は、稚魚の生息場所やミズムシ、クロマダラカゲロウ、シロタニガワカゲロウ等の底生動物の生息場所となる。また、水域に近づきやすい場所は、イタチ等の小動物の採餌場所やカエル類の生息場所となる。</p>

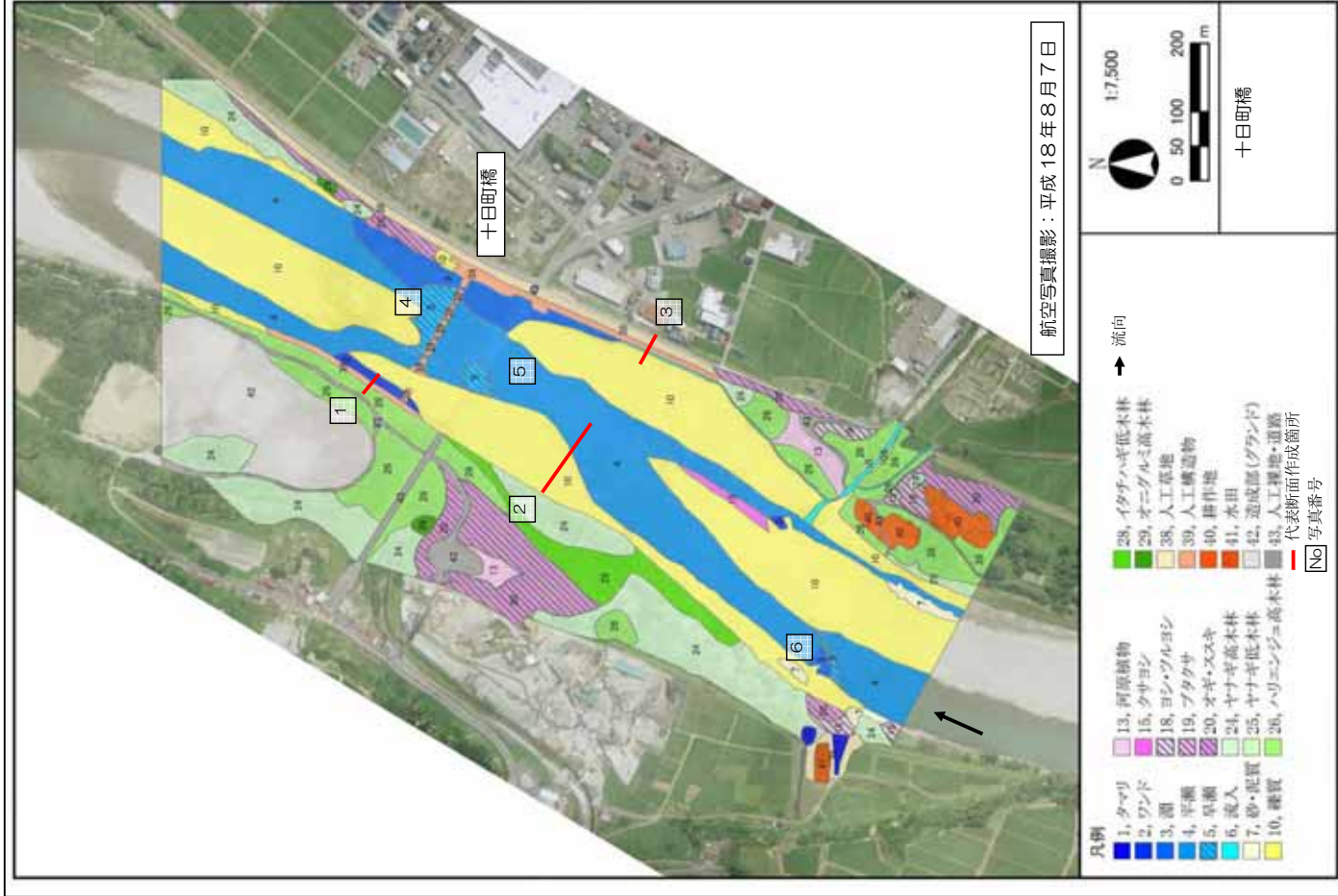
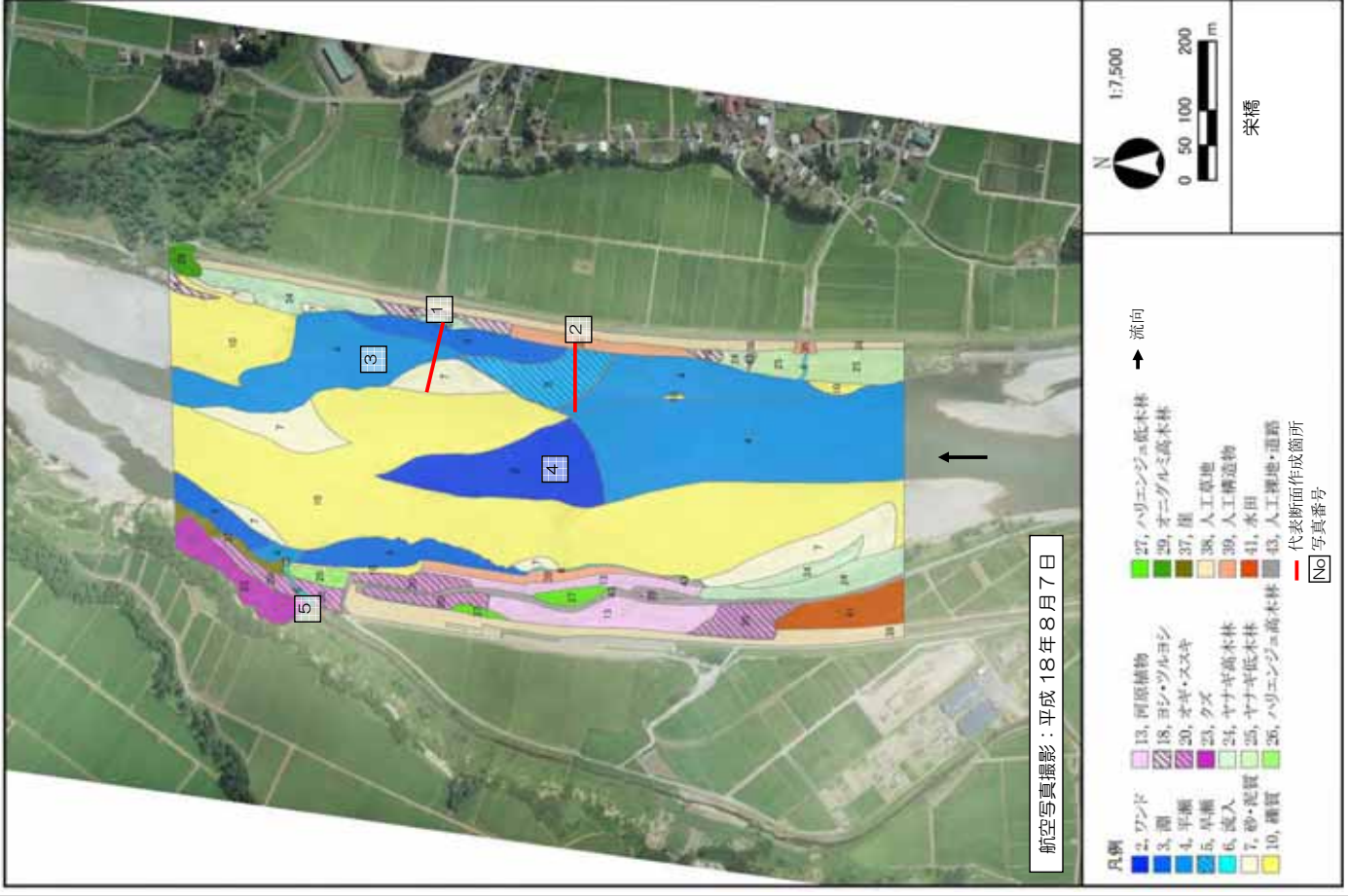


写真 1 ワンド		
写真 2 浅場		
写真 3 流入		
写真 4 早瀬		写真 5 平瀬
		写真 6 淵

注：代表断面の生物種については過年度調査等の結果から抽出した。

図 1.1-4(1) 環境要素分布図及び環境写真（十日町橋）



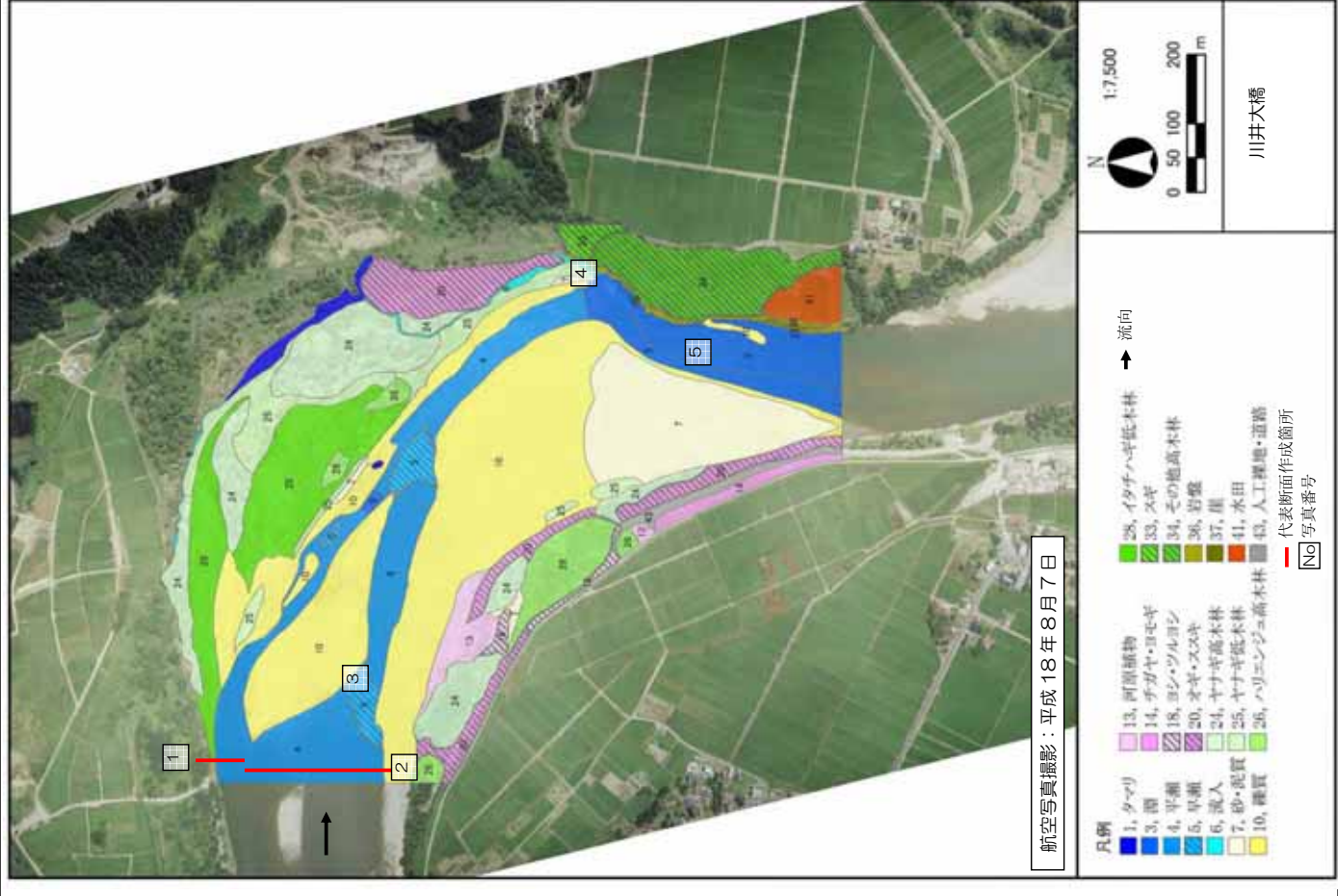


写真 1 植生に覆われた水際		
写真 2 平瀬		
写真 3 早瀬		写真 4 流入
写真 5 淵		

注：代表断面の生物種については過年度調査等の結果から抽出した。

図 1.1-4(3) 環境要素分布図及び環境写真 (川井大橋)


表 1.1-4(1) 断面模式図(宮中ダム減水区間)

項目		早瀬	平瀬	淵
環境写真				
	環境模式図	<p>鳥類: イソシギ、セキレイ類、カワガラス</p> <p>魚類: カジカ、アカザ、コクチバス</p> <p>底生動物: フタバコカゲロウ、ウルマーシマトビケラ</p>	<p>鳥類: サギ類、セキレイ類</p> <p>鳥類: オオヨシキリ</p> <p>魚類: アユ、オイカワ、ウグイ</p> <p>底生動物: アカマダラカゲロウ、シロタニガワカゲロウ</p>	<p>鳥類: カワウ、マガモ、コガモ</p> <p>魚類: フナ類、コイ、ニゴイ</p> <p>底生動物: クシゲマダラカゲロウ、フタスジモンカゲロウ</p>
代表地点		宮中ダムより約17km栄橋下流付近、右岸側に位置する。河川内に広がる大規模な礫洲により、早瀬が形成されている。	宮中ダムより約27km川井大橋下流付近に位置する。河川の蛇行部上流であり、川幅が狭まり全面に平瀬が形成されている。	宮中ダムより約17km付近、栄橋下流右岸側に位置する。河岸は、上流側の早瀬の水衝部となっており、淵が形成されている。河岸には、テトラポットが設置されている。
	河床勾配	1/300	1/300	1/300
	河床形態	主にBb型。	主にBb型。	主にBb型。
	河川植生	水際には土砂の堆積は無く、植物の生育はみられない。高水敷は、玉右護岸が整備され、法面上部にシバが生育する程度である。	水際の砂洲には、ツルヨシが生育し、水際近くまで広がる。高水敷には、ヤナギ低木が生育し、背後には、広葉樹林が広がる。	低水護岸の土壌は洗掘しており、水際にはテトラポットが設置されている。低水敷には、ヤナギ高木林やツルヨシが生育する。
	魚類	早瀬の石礫底は、カジカ、アカザ等が生息する。また、外来生物のコクチバスもみられる。	石礫では、アユが付着藻類を捕食し、採餌場所として利用する。流れの緩やかな場所は、オイカワ、ウグイの産卵場所となると考えられる。	静水域である淵は、フナ類、コイ、ニゴイ等の生息場所となる。
生物群集	底生動物	流速の早い石の下は、フタバコカゲロウ、ウルマーシマトビケラ、ナカハラシマトビケラ等の生息場所となる。	流水部は、アカマダラカゲロウ、シロタニガワカゲロウ等の生息場所となる。	静水域は、クシゲマダラカゲロウ、フタスジモンカゲロウ等の生息場所となる。
	その他	早瀬の石上では、昆虫類を採餌する、イソシギ、セキレイ類、カワガラス等の鳥類がみられる。	水深の浅い平瀬は、サギ類やセキレイ類等の鳥類の採餌場所となり、水際に生育するヨシ群落は、オオヨシキリ等の生息場所となる。	淵は、カワウ、マガモ、コガモの鳥類の採餌場所となる。
	環境の概要	河床勾配は、概ね1/300であり、河川形態はBb型である。全体的に平瀬であるが、河川内には大規模の砂洲が発達しているため、河川幅が狭まり早瀬が形成されている。砂洲に植物の生育はみられないことから、増水時には水没しているものと考えられる。河岸には、護岸が整備されている。	河床勾配は、概ね1/300であり、河川形態はBb型である。河川の蛇行部上流となっており、両岸に寄洲が発達している。全体的に平瀬であるが、洲により河川幅が狭まっている場所には早瀬が形成されている。砂洲にはヤナギやイタチハギの低木林、陸側にはヤナギの高木林が成立していることから、安定した洲となっていると考えられる。	水深が深く、流れの無い淵では、フナ類、モツゴ、ニゴイ等の魚類、クシゲマダラカゲロウ、フタスジモンカゲロウ等の底生動物が生息する。また、シロタニガワカゲロウ等のやや流れの速い場所にみられる種が生息する。水深の浅い水際は、サギ類やセキレイ類が採餌場所として利用し、ヨシ群落は、オオヨシキリが繁殖場所として利用する。

表 1.1-4(2) 断面模式図(宮中ダム減水区間)

項目	浅場	ワンド	植生に覆われた水際
環境写真			
環境模式図	<p>鳥類: チドリ類、セキレイ類</p> <p>魚類: 稚魚</p> <p>底生動物: ヒメトビイロカガロウ、キマダラカガロウ</p>	<p>鳥類: サギ類、セキレイ類</p> <p>魚類: カマツカ、オイカワ</p> <p>底生動物: ヒメトビイロカガロウ、クシゲマダラカガロウ</p>	<p>鳥類: カワセミ、オオヨシキリ</p> <p>魚類: アブラハヤ、モツゴ、タモロコ</p> <p>底生動物: サカマキガイ、ミズムシ(ミズムシ科)</p>
代表地点	宮中ダム下流約9.5km十日町橋上流付近、左岸側に位置する。河川内には礫の香洲があり、水際には石が点在し、浅瀬が形成されている。	宮中ダム下流約9.5km十日町下流付近、左岸側に位置する。護岸と礫洲の間にワンドが形成され、止水域となっている。	宮中ダムより約27km川井大橋下流付近、左岸に位置する。河岸は緩傾斜となっており、水域まで植物の生育がみられる。
生育環境・生物群集	河床勾配 1/250	1/250	1/300
	河床形態 主にBb型。	主にBb型。	主にBb型。
	河川植生 水際には、石・礫が堆積し、背後に土砂が堆積する。土砂上には、タデ類、ツルヨシ、ヨシ、オギが生育し、高水敷には木本類が生育する。	ワンド内には、僅かではあるが、ツルヨシの生育がみられる。水際に、土砂の堆積がし、ツルヨシやタデ類する。高水敷は樹林が成立する。	水際は、砂質の緩傾斜となっており、水際までツルヨシやヤナギ低木が生育する。高水敷には、ヤナギ高木林等の木本類が生育する。
	魚類 水際の浅瀬は、稚魚の生息場所となる。	石、砂礫底のワンドは、カマツカ、オイカワの餌場となる。	水際の植物は、アブラハヤ、モツゴ、タモロコ等の生息場所や稚魚の隠れ場所となる。
環境の概要	底生動物 流れが緩い場所の石底は、ヒメトビイロカガロウ、キマダラカガロウ、 <i>Antocha</i> 属の一種等の生息場所となる。	ワンド内や落ち葉等の堆積物はヒメトビイロカガロウ、クシゲマダラカガロウ等の生息場所となり、コヤマトンボの生息場所となる。	水際の植物は、アブラハヤ、モツゴ、タモロコ等の生息場所や稚魚の隠れ場所となる。
	その他 水深の浅い浅瀬ではサギ類が、砂礫洲ではチドリ類、セキレイ類等の鳥類が採餌を行う。	ワンドではサギ類、セキレイ類等の鳥類が採餌を行う。	水際近くの木本類は、魚類を狙うカワセミが止まり木に利用する。水際のヨシ群落は、オオヨシキリの生息場所となる。
	河床勾配は、概ね1/250であり、河川形態はBb型である。全体的に平瀬であるが、河川内には大規模の砂洲が発達しているため、河川幅が狭まる部分では、早瀬が形成されている。河川敷には、ヤナギ、イタチハギ低木林やハルエンジュ高木林等の樹林が成立している。砂礫洲の水際には、石が点在し、流れの緩やかな浅瀬が形成されている。流れの緩やかな水深の浅い場所は、稚魚の生息場所やドジョウの産卵場所として利用され、サギ類が採餌を行う。底生動物では、ヒメトビイロカガロウ、キマダラカガロウ等が石の下に生息し、チドリ類やセキレイ類が採餌を行う。	河床勾配は、概ね1/250であり、河川形態はBb型である。全体的に平瀬であるが、河川内には大規模の砂洲が発達しているため、河川幅が狭まる部分では、早瀬が形成されている。ワンド内には、ツルヨシの生育がみられ、砂礫洲上にはツルヨシやタデ類の生育がみられる。流れの緩やかなワンドでは、カマツカ、オイカワ等の餌場やナマズの産卵場所となり、落ち葉の堆積物に生息するヒメトビイロカガロウ、クシゲマダラカガロウ等の他コヤマトンボの生息場所となる。また、それらを捕食するサギ類やセキレイ類が採餌場所として利用する。	河床勾配は、概ね1/300であり、河川形態はBb型である。河川の蛇行部上流となっており、両岸に香洲が発達している。全体的に平瀬であるが、洲により河川幅が狭まっている場所には早瀬が形成されている、砂洲にはヤナギやイタチハギの低木林、陸側にはヤナギの高木林が成立していることから、安定した洲となっていると考えられる。水際は、砂質の緩傾斜となっており、水際までツルヨシやヤナギ低木が生育する。高水敷には、ヤナギ高木林等の木本類が生育する。水際の植物は、アブラハヤ、モツゴ、タモロコ等の生息場所や稚魚の隠れ場所、サカマキガイ、ミズムシ等の生息場所となる。また、水際近くの木本類は、魚類を狙うカワセミの止まり木や、水際のヨシ群落は、オオヨシキリの繁殖場所となる。

表 1.1-4(3) 断面模式図(宮中ダム減水区間)

項目		流入
環境写真		
環境模式図		 <p>魚類: ドジョウ、稚魚</p> <p>底生動物: アカマダラカゲロウ、コヤマトンボ</p>
代表地点		宮中ダム下流約9.5km十日町橋上流付近、右岸側に位置する。上流側の流入部から下流側のワンドに流れている。
生生 境育 息環・	河床勾配	1/250
	河床形態	主にBb型。
	河川植生	細流の水際には、石・礫が堆積し、タデ類やツルヨシ、ミゾソバの生育がみられる。護岸は玉石護岸であり、法面上部にシバが生育する程度である。
生物 群 集	魚類	植物が繁茂する細流は、ドジョウやオイカワ等の稚魚の生息場所となる。
	底生動物	植物が繁茂する細流は、アカマダラカゲロウ、コヤマトンボの幼虫の生息場所となる
	その他	水際の洲や草地では、イソシギ、セキレイ類等の鳥類が採餌を行う。
環境の概要		<p>河床勾配は、概ね1/250であり、河川形態はBb型である。全体的に平瀬であるが、河川内には大規模の砂州が発達しているため、河川幅が狭まる部分では、早瀬が形成されている。</p> <p>水際には、石・礫が堆積し、タデ類やツルヨシ、ミゾソバの生育がみられる。緩やかに流れる細流は、ドジョウや稚魚の生息場所となり、細流には植物の生育がみられ、このような環境はアカマダラカゲロウ、コヤマトンボ等の生息場所となる。また、これらを捕食するイソシギやセキレイ類も採餌場所として利用する。</p>